

SHARP
Be Original.

環境サイトレポート2023



シャープ株式会社 総合開発センター

目次

環境サイトレポート発行の目的

この環境サイトレポートで「シャープ株式会社総合開発センター」の環境活動をご紹介します、地域・社会とのコミュニケーションの輪を拡げて参りたいと考えております。

以下の目的で環境情報を公開しています。

- ◆総合開発センターの環境活動を多くの方々に知っていただく
- ◆環境活動をご理解いただき、さらに信頼される事業所をめざす
- ◆環境活動の効果と質を更に高めるため、多くの方のご意見をお聞きする

○環境管理経営責任者からのご挨拶	・・・ P. 3
○総合開発センターの概要と 環境保全活動のあゆみ	・・・ P. 4
○総合開発センター マップ (建屋と主な環境施設)	・・・ P. 5
○シャープの環境方針	・・・ P. 6~7
○総合開発センター環境方針	・・・ P. 8
○環境負荷データ(使用量と排出量)	・・・ P. 9
○環境関連順法報告データ	・・・ P. 10
○地球温暖化防止の推進	・・・ P. 11
○廃棄物排出量の削減	・・・ P. 12
○化学物質のリスク管理推進	・・・ P. 13
○社会貢献活動・生物多様性 活動の推進	・・・ P. 14~16
○SDGsの取り組み	・・・ P. 17~21
○シャープミュージアムの紹介	・・・ P. 22

対象読者は

主に、近隣にお住まいの方々、ご来訪のお客様、社外の環境展示会など催物にご参加の皆さまです。

環境管理経営責任者からのご挨拶

平素よりシャープ製品を通じ、格別のご支援とご愛顧を賜り厚く御礼を申し上げます。

「二意専心 誠意と創意」の経営信条、「誠意と創意をもって『人と地球に優しい企業』に徹する」の環境基本理念のもと、常に時代の変化を予見しながら「独自の技術開発・新商品の創造」により、お客様に満足を提供し社会の発展に努めて参りました。

総合開発センターは、大阪万博が開催された1970年に、ここ天理市櫛本町の丘陵地に設立されました。

この地は、近隣に山の辺の道、赤土山古墳、東大寺山古墳群が点在し歴史的価値が高い地域で設立当初より自然との調和と地域との共生を目指して取り組んでまいりました。

当社は、“E S Gに重点を置いた経営”の実践を経営方針として掲げ、健康的な生活を支援する「デジタルヘルスケア事業のさらなる強化」や、2050年温室効果ガス排出量実質ゼロに向けた「カーボンニュートラルへの貢献」、加えて「技術革新が進むA Iの更なる応用強化」等、社会が直面する課題解決に積極的に取り組み、イノベーションを巻き起こす革新的なサービスやソリューションの創出に注力しております。

■ 2022年度の活動

- ▶ 循環型社会実現のため、リデュース・リユース・リサイクル（3R）による環境負荷を軽減する商品の創出や、創・蓄・省エネルギーを取り入れた環境に配慮した技術開発を推進しております。
- ▶ 生産拠点から開発拠点へ移行した中で、ユーティリティ設備の適正化などエネルギー削減に取り組むとともに、停止した設備については無害化し適切に対応を行いました。また研究開発で扱う化学物質や装置を新規導入する際の事前審査の実施、適正管理を継続して取り組んでおります。
- ▶ 社会貢献活動・生物多様性保全活動では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を縮小して『事業所周辺清掃活動』・『ササユリ育成保全活動』・『ホタル保護保全活動』に取り組み、ササユリの開花とホタルの生息を確認することが出来ました。

シャープグリーンクラブの活動を通じた社会貢献活動が継続できていることを喜ばしく思っています。

この環境サイトレポートは、2022年度に取り組んだ環境活動の内容をご紹介します。

本レポートを通して、私たちの取り組み姿勢や、活動内容をご理解いただければ幸いです。

今後も現状に甘んじること無く、さらに環境活動の成果と質を高めてまいりますので、皆様のご意見をお聞かせください。

2023年 8月



総合開発センター
事業所管掌

常務 研究開発本部長

種谷 元隆

総合開発センターの概要と環境保全活動のあゆみ



概要

操業開始	1970年(昭和45年)3月
主な構成組織	研究開発本部 シャープディスプレイテクノロジー株式会社 シャープセンシングテクノロジー株式会社 シャープセミコンダクターイノベーション株式会社
主な活動	人に寄り添うIoT、8Kエコシステム向け研究開発
敷地面積	212,000㎡
建屋延床面積	198,000㎡
従業員数	1227人 (2023年3月末時点)

あゆみ

1971年	技術本部に環境技術部を設置、環境保全活動を推進
1979年	第1回全社総合エネルギー委員会を開催
1997年	DMSO含有排水の回収システムで通産大臣賞受賞
2003年	10,300kW コ・ジェネレーション設備導入
2004年	当社液晶パネルが日経優秀製品30周年特別賞受賞 太陽光発電40kW導入
2006年	開発・技術・生産・環境部門による省エネ対策委員会等の発足 「シャープの森」として天理古墳整備活動を開始
2007年	超省電力夢の壁かけ液晶テレビを開発
2009年	新環境ビジョン「エコ・ポジティブカンパニー」を設定
2010年	天理の「生物多様性保全」シンボルとして“笹ユリ”を設定
2011年	「生物多様性保全」活動で、“笹ユリ”が育成地で初めて発芽
2012年～ 2013年	事務所照明のLED化(総数6,682本) 古紙の一部リサイクル化
2014年	古紙のリサイクル率100%達成。 天理市環境連絡協議会の「緑の保全部会」に参画 ホタルの保護保全の活動として高瀬川の清掃活動を開始
2015年	3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進功労者等表彰にて推進協議会会長賞受賞
2017年	事業所の下流の高瀬川でホタルの生息を確認
2019年	高濃度PCB含有廃棄物全数処分完了
2020年	天理市とインキュベーション事業に関する連携協定を締結

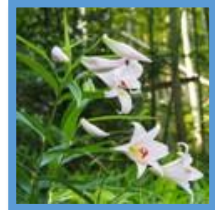
総合開発センターマップ (建屋と主な環境施設)



センター正面からの古墳

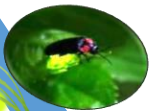


横穴式石室跡



育成したササユリ

事業所の下流で
ホタル発見



特高変電所

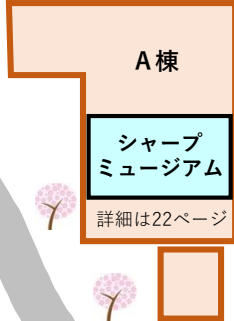


ガスヤード

インフォメーション



東大寺山古墳
天理古墳シャープの森



A棟

シャープ
ミュージアム

詳細は22ページ



B棟



C棟



D棟



排水処理施設



研修所



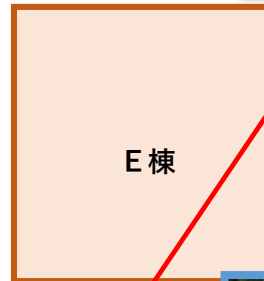
厚生棟
(クラブハウス)
食堂



G棟



F棟



E棟



排水処理
施設



太陽電池発電
(最大出力40 kW)

井戸

井戸より毎日約200m³を
飲料用以外に利用しています。



下水への放流



河川への放流

- 高瀬川 -

シャープの環境方針

環境活動：環境ビジョン

長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」



を使用することに挑戦するとともに、自社活動による廃棄物の最終処分ゼロを目指します。

「安全・安心」の分野では、人と地球環境・生態系への影響が懸念される化学物質の徹底管理と消費抑制により、これらの悪影響リスクを排除します。

なお、長期環境ビジョンの実現に向け、それぞれの分野における具体的な取り組みや定量的な目標を設定した「中期環境目標」の策定を進めています。「気候変動」に関しては、2050年の自社活動のCO₂排出量ネットゼロに向け、CO₂排出量を2030年までに40%削減、2035年までに60%削減という目標を掲げています。

シャープは、企業活動／環境保全活動を通じ、ステークホルダーの皆様との連携をさらに深め、社会課題の解決と企業価値の一層の向上に取り組みます。

- ※1 温室効果ガスの排出量から吸収量を差し引いて、合計を実質ゼロにする状態。
- ※2 廃棄された製品や原材料などを新たな「資源」と捉え、廃棄物を出すことなく資源を循環させる経済の仕組み（循環型経済）。
- ※3 パリ協定には、世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求することが長期目標として定められている。

策定しました。「気候変動」「資源循環」「安全・安心」の3つの分野で2050年の長期目標を設定し、持続可能な地球環境の実現を目指します。

「気候変動」の分野では、パリ協定の「1.5°C目標^{※3}」を意識し、自社活動のCO₂排出量のカーボンニュートラルを目指します。また、クリーンエネルギー関連製品・サービスの普及拡大を進めるとともに、製品・サービスで発生する温室効果ガスの削減に取り組みます。

「資源循環」の分野では、サーキュラーエコノミーへの取り組みとして、製品中の全ての部材にリサイクル素材

気候変動や資源枯渇、プラスチックゴミ問題など、地球規模の環境問題はさらに深刻さを増し、国際社会における重要課題として認識されています。このような中、「持続可能な開発目標（SDGs）」や「カーボンニュートラル^{※1}」への対応、「サーキュラーエコノミー^{※2}」の実現に向けた取り組みなど、社会課題の解決に向けた動きがグローバルで加速しています。

シャープは、1992年に定めた環境基本理念「誠意と創意をもって『人と地球にやさしい企業』に徹する」の下、2019年に長期環境ビジョン「SHARP Eco Vision 2050」を

シャープの環境方針

環境活動：環境ビジョン

長期環境目標

シャープは「SHARP Eco Vision 2050」の実現に向けて、3つの分野それぞれに長期的なゴールを定め、「消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーの創出」および「企業活動で生じる地球への環境負荷の最小化」に取り組みます。



気候変動

シャープはこれまで、自らが消費するエネルギーの削減をはじめ、製品の省エネルギー化を進めることで、家庭や社会で消費されるエネルギーの削減に努めてきました。

また、創業者 早川徳次の「当社が出しているものは、全て電気を使うものばかり。今後、会社が大きくなればなるほど電気を使うことになるので、（電気を）作ることもしよう」という考えで太陽電池の開発に着手し、半世紀以上にわたり太陽光発電の普及にも努めてきました。

電気を使う製品を作る会社だからこそ、電気の使用で生じる環境負荷に責任を持たなければならない。

シャープは世界が目指すカーボンニュートラルの達成を支持し、自社活動をはじめサプライチェーン全体の脱炭素社会を実現すべく、2050年に向け以下の2つの目標に挑戦します。

目標

- 自社活動のCO₂排出量をネットゼロへ
- サプライチェーン全体で消費するエネルギーを上回るクリーンエネルギーを創出



資源循環

シャープはこれまで、新しい製品を生み出すことで世の中に多様な価値を提供してきた一方で、多くの資源を使用してきました。

限りある資源の中で、全てのステークホルダーに多様な価値をいつまでも提供できるように。

シャープは「資源の有効活用」により一層努め、「最小限の資源」で「最大限の価値」を継続的に提供し、サーキュラーエコノミー（循環型経済）を構築し、循環型社会を実現すべく、2050年に向けて以下の2つの目標に挑戦します。

目標

- 製品への新規採掘資源*の使用をゼロへ
- 自社活動による廃棄物の最終処分をゼロへ

* リサイクルをするに当たり環境配慮面で合理性のないものを除く。



安全・安心

シャープの工場では製品製造工程においてさまざまな化学物質を使用し、また、製品にはさまざまな化学物質が含有されています。化学物質には人体や地球環境・生態系に悪影響を及ぼすものもあり、その取り扱いには徹底した管理が必要です。

シャープの企業活動が、人の健康や地球環境・生態系に悪影響を及ぼすことがあってはならない。

シャープは現行の国際基準はもとより、将来を見据えた自社基準を設定し、これらに準じた化学物質の徹底管理を行い、「化学物質が人の健康や地球環境・生態系に及ぼす影響」を排除します。

目標

- 化学物質の適正管理で人の健康や地球環境・生態系を守る

総合開発センター環境方針

シャープの環境理念は、“誠意と創意をもって「人と地球にやさしい企業」に徹する”ことです。
総合開発センターでは『環境保全活動』と『社会貢献活動・生物多様性活動』を推進し、『環境先進事業所』を目指しています。

(1) 地球温暖化防止の推進

- ①開発設備、動力設備の省エネルギー推進
- ②CO₂等の温室効果ガス排出抑制の推進

(2) 廃棄物排出量の低減

- ①廃棄物の発生抑制・再利用・再資源化の推進

(3) 化学物質のリスク管理推進

- ①化学物質及びそれに係わる装置の導入・維持におけるリスクマネジメントの推進
- ②社会の要求事項との整合に向けたリスクマネジメントの推進

(4) 社会貢献活動・生物多様性活動の推進

- ①シャープグリーンクラブの活動を通じ、地域社会への貢献・コミュニケーションの充実
- ②敷地内に自生する『笹ユリ』の育成保全による生物多様性活動の推進
- ③高瀬川に生息する『ホタル』の保護による生物多様性活動の推進

環境管理責任者より

研究開発本部 天理UTTサービス部
部長 吉村 匡司



環境保全活動を通じ、社内外との連携を深めると共に、環境負荷の管理や化学物質などの適正管理を行い、安心・安全な事業所を目指して参ります。

事業所管掌総務部長より

研究開発本部 総務部
部長 横山 敬弘



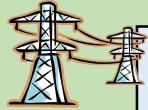
総合開発センター環境方針に基づき、環境保全活動に取り組むと共に地域の皆様方と積極的にコミュニケーションをとることにより、信頼される環境先進事業所を目指します。

環境負荷データ（使用量と排出量）

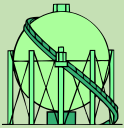
事業活動による年間の環境負荷（使用しているもの・排出しているもの）をまとめています。
2022年度の結果は下記の通りです。

主に使用しているもの

エネルギー



電 気
21,714 MW h
一般家庭：約5,000軒分



都市ガス
1,402 千m³
一般家庭：約6,900軒分

L P G（プロパンガス）
10 t
一般家庭：約 160軒分

総合開発センターでの
事業活動

人に寄り添うIoT及び
8Kエコシステムに向けた
研究開発

主に排出しているもの

排 気



CO₂ 排出量
11,988 t-CO₂

NO_x 排出（窒素酸化物）
2,594 kg

排 水



河 川 排 水
7 千m³

下 水 道 排 水
80 千m³

廃 棄 物



産業廃棄物・一般廃棄物
307 t

水



上 水 道
96 千m³
一般家庭：約320軒分

井 戸 水
36 千m³

化学物質



P R T R 対象物質
0 t



環境関連順法報告データ

環境関連法定規制値に対し、より厳しい自主基準値を設定し一層の環境保全に取り組んでいます。
2022年度も自主基準値を全てクリアする結果となっています。

河川への放流水の水質測定の実績

項目	単位	法定・条例規制値	自主基準値	2022年度 実績値 (最大値)	評価
水素イオン濃度 (pH)	—	5.8 ~ 8.6	6.2 ~ 8.4	8.4	◎
化学的酸素要求量 (COD)	mg/l	160	15	9.1	
生物化学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	25	18	2.0	
浮遊物質	mg/l	90	18	0.9	
窒素濃度 (N)	mg/l	120	60	1.5	
リン (P)	mg/l	16	8	3.2	
フッ素 (F)	mg/l	8	6	0.20未満	

※その他の測定項目についても、全て自主基準値以下および検出限界未満（不検出）で、基準をクリアーしています。
銅、亜鉛、溶解性鉄、溶解性マンガン、ヒ素及びその化合物、カドミウム及びその化合物、シアン化合物、有機リン化合物
ノルマヘキサン抽出物質（鉱物油）、ノルマヘキサン抽出物質（動植物油脂類）、フェノール類、鉛及びその化合物等

大気測定の実績

項目	単位	法定・条例規制値	自主基準値	2022年度 実績値 (最大値)	評価
窒素酸化物	ppm	150	75	40	◎
ばいじん	g/m ³ N	0.1	0.01	0.002未満	

騒音・振動測定の実績

項目		単位	法定・条例規制値	自主基準値	2022年度 実績値 (最大値)	評価
騒音	朝	dB	60	54	41	◎
	昼間	dB	65	56	44	
	夕	dB	60	56	43	
	夜間	dB	50	-	43	
振動	昼間	dB	65	50	28	
	夜間	dB	60	50	22	

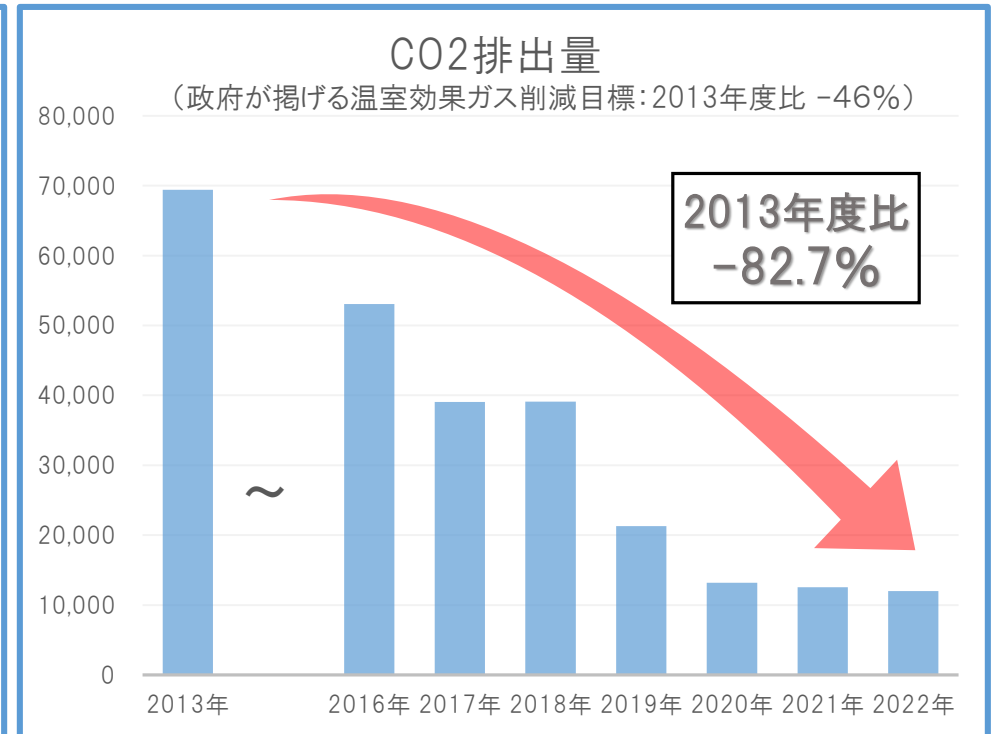
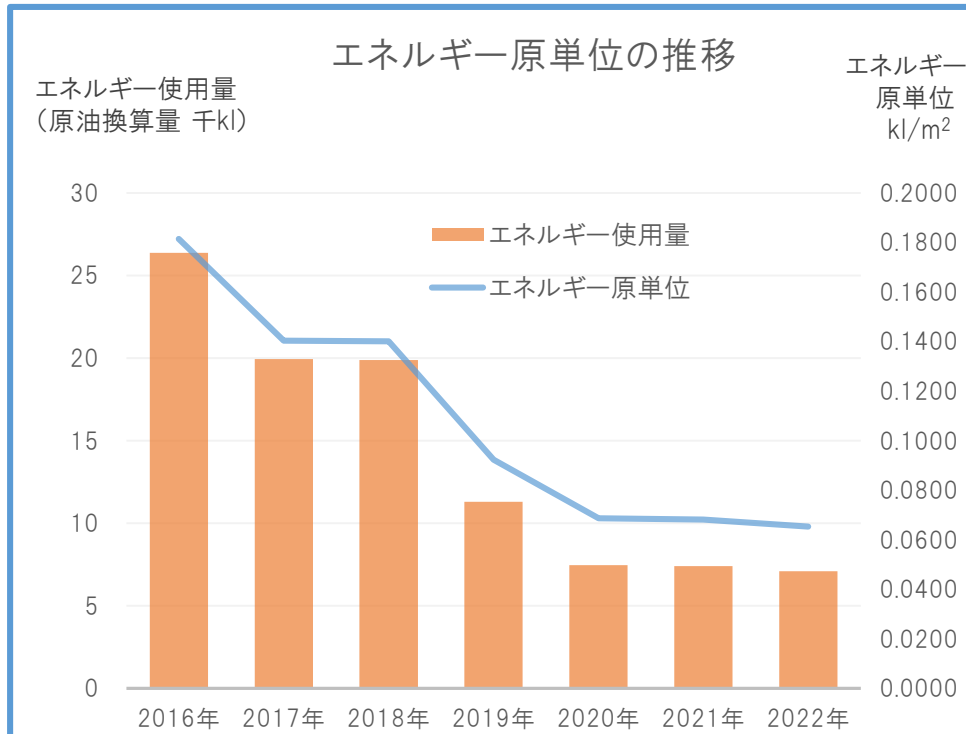
地球温暖化防止の推進

総合開発センターでは、“地球温暖化防止対策”を重要課題と位付け、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。

原油削減量 2022年度実績 651 kl/年 削減

主な省エネ施策

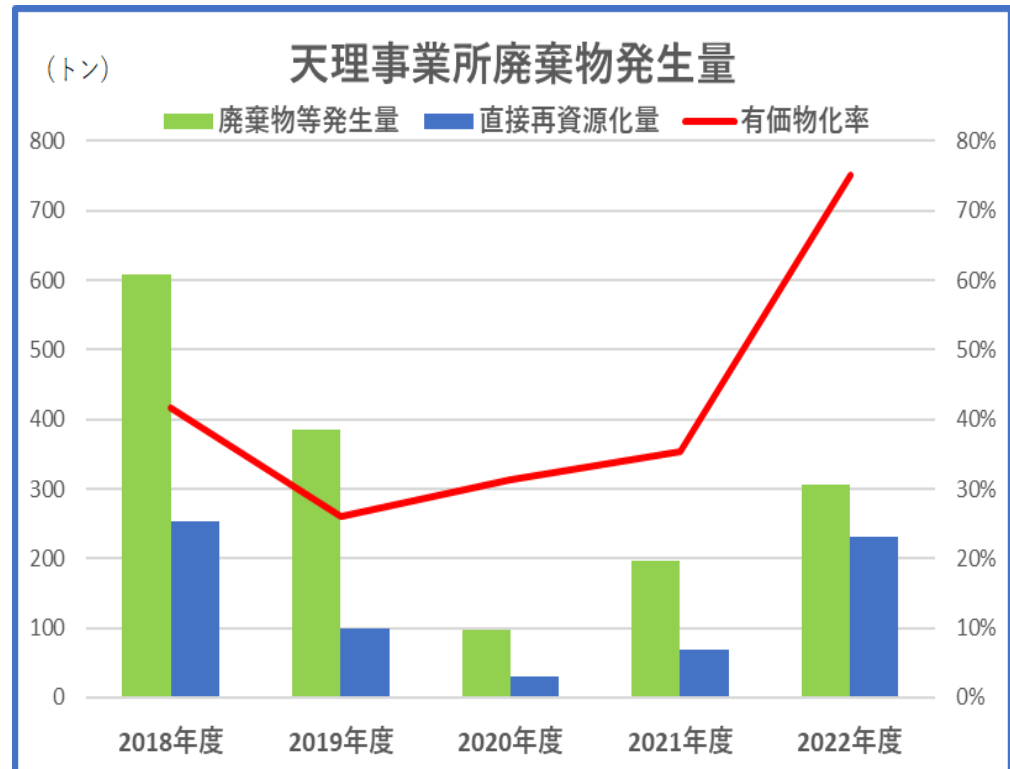
- 電気設備（変圧器）の統合による、変圧器無負荷損の削減
- クリーンルームの集約によるユーティリティ適正化



エネルギー原単位: 床面積1平方メートルあたりのエネルギー使用量

廃棄物排出量の低減

2019年度に事業形態の変更があり、廃棄物・有価物量が減少しましたが、これまで廃棄物として処分していた雑配線や基盤類等を細かく分別し、有価物として回収したことで、有価物化率の改善ができました。【2021年比：金属屑が19倍（9t → 176t）】



	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
廃棄物等発生量	608	385	97	197	307
直接再資源化量	254	100	31	70	230
有価物化率	42%	26%	31%	35%	75%

化学物質のリスク管理推進

化学物質の事前審査や教育会

新たな化学物質の導入時や取扱設備の増設・改造時には、**プロセスアセスメント制度**（事前安全審査制度）により、厳密な事前審査を実施することで、環境負荷の低減と安全の確保、健康への配慮を行っています。

危険物や有害化学物質の「特殊安全管理」の徹底

研究開発に使用するすべての薬品(危険物)を薬品管理支援システム(IASO)を利用することで管理の徹底を図っています。

「薬液保安教育会」「高圧ガス保安教育会」の開催※

薬液・ガスを取り扱う上での基礎知識を再確認しています。

※コロナ対応によりリモート(eラーニング)にて実施

防災訓練の実施

地震及び火災を想定した訓練を実施。同時にスマートフォンを利用した『安否確認システム』による安否確認を実施した。

2022年度 受講者実績

- 「薬液保安教育会」 148名受講
- 「高圧ガス保安教育会」 80名受講
- 「防災訓練」 876名参加



避難訓練の様子



消火栓による放水訓練の様子

社会貢献活動・生物多様性活動の推進

社会活動：地域社会とともに

社会貢献活動の推進

2022年度の目標	2022年度の実績	自己評価	2023年度の重点取り組み目標
■ 社会課題の解決のため、地域社会とともに従業員が主体となって各地域に役立つ活動を実施し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献	■ 環境保全活動などへの参加延べ人数：10,515人（家族などを含む） ■ 実施延べ回数：778回 ■ 特別支援学校などへのキャリア教育を延べ1,656人を対象に実施	★★	■ 社会課題の解決のため、地域社会とともに従業員が主体となって各地域に役立つ活動を実施し、SDGsの達成に貢献

自己評価：★★★ 目標を上回る成果があった ★★ 目標を達成 ★ 一定の成果があった

シャープグループでは「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」という経営理念のもと、各地域コミュニティの一員として地域の社会課題解決に取り組んでいます。引き続き地域と共存共栄する関係を育むため、「環境」「教育」「社会福祉」を軸に、従業員が主体となって自発的かつ継続的に活動を推進していきます。

環境保全活動

多様な生物が共存する生態系が保たれることが、企業および個人にとって豊かな生活環境をもたらすと認識し、全国各地の事業所や営業・サービス拠点を中心に、環境保全活動を推進しています。

地球上に生息する全ての「いきもの」たちが支えあいバランスを保っている状態を意味する「生物多様性」保全／里山保全のための取り組みとして、労使共同のボランティア団体「シャープグリーンクラブ（SGC）」を主要拠点に設置しています。SGCでは、国内シャープグループ全従業員一人ひとりが身近な環境問題と向き合い、自らの環境保全意識を高められるよう、地域住民を含むステークホルダーとコミュニケーションを取りながら、活動しています。例えば、里山保全活動では「森・いきもの・人のつながりを理解し、きずなを深め、地球環境への優しい心をはぐくむ森づくり」を基本コンセプトに「シャープの森づくり」を全国の5か所で展開し、植林や植えた苗を育てあげる育林活動に取り組んでいます。また、水鳥や湿地の保全を目的とした「ラムサール条約湿地の保全活動」では、全国の4か所で環境省や自治体などと連携し、外来種の除去や清掃活動などを行っています。その他、各拠点近隣の清掃活動を継続的に実施し、自治体などが主催する清掃・緑化活動などにも参加、地域に密着・連携した環境保全活動に取り組んでいます。

2022年度は、こうした活動を延べ778回実施し、役員・従業員とその家族他、延べ10,515人が参加しました。また、海外でも企業の社会的責任（CSR）プログラムとして、環境保全活動、教育支援活動、社会福祉に取り組んでいます。

シャープの社会貢献の原点は、創業者の「報恩の心」にあります。地域からそして社会から受けている恩に報いるため、これからも地域に根ざした活動を推進していきます。

取り組み事例



長岡ビル（新潟県長岡市）の
長岡まつり大花火大会後の清掃に参加



広島ビル（広島市安佐南区）の
「八木用水クリーン作戦」に参加

社会貢献活動・生物多様性活動の推進

社会活動：地域社会とともに

社会貢献活動の推進

国内でのさまざまな活動

地域のさまざまな環境問題に対して、労使が協調して地域に密着した環境ボランティア活動に取り組んでいます。

取り組み事例

幕張事業所（千葉県千葉市）では、美しい街づくりを進める地域・景観保全活動として、幕張新都心まちづくり協議会（MMK）の活動に参加しています。

2022年6月に、JR海浜幕張駅 国際大通りに設置されているプランター100基に花苗を植える「街中オープンガーデン作戦（幕張地区合同）」が開催され、従業員5名が近隣企業の参加者とともに、季節の花のマリーゴールドの花苗をプランター20鉢に植えました。



ガイダンスを受ける参加者



マリーゴールドの花苗の植栽

取り組み事例

三重事業所（三重県多気郡）では、多気町の「ふれあいの森」を拠点に多気シャープの森の活動として、森林保全と景観整備に取り組んでいます。

2022年7月に、従業員とその家族26名がアジサイの剪定と薪割りを、2022年11月には、歩道整備や歩道周辺の下草刈り、不要になった看板の撤去を行いました。



アジサイの剪定と薪割り



歩道周辺の下草刈り

取り組み事例

天理事業所（奈良県天理市）では、春と秋に従業員とその家族などが参加して、労使共同のボランティア活動を実施しています。

2022年11月に、従業員6名が事業所周辺を流れる高瀬川の流域内のゴミ拾いと除草を行いました。また、同日開催の天理古墳シャープの森づくりの参加者29名とともに、5月に植え付けた落花生やサツマイモの収穫をしました。



高瀬川のゴミ拾い



サツマイモの収穫体験

社会貢献活動・生物多様性活動の推進

- 主な地域のボランティア活動
- 布留川清掃活動（5月）
 - クリーンアップなら（9月）
 - 落ち葉かき（11月）
 - はにわ祭り（2月）
 - 大和川清掃（3月）



事業所周辺清掃参加者集合

SGC/社会貢献活動

シャープでは、ボランティア団体“SGC”（シャープグリーンクラブ）を設立し、地域に密着した環境ボランティアを目的に活動しています。総合開発センターでも、社内の取り組みだけでなく、活動の幅を広げ地域とのつながりも大切にしています。



高瀬川清掃の様子



こんなにゴミを拾ったよ！

生物多様性保全 (ホタル保護)



生物多様性保全 (ササユリ育成保全)



自生ササユリの成長過程



5月頃に一つ葉

シャープでは、「森・いきもの・人のつながり」を理解し、きずなを深め、地球環境への優しい心をはぐくむ森」をコンセプトに「シャープの森づくり」を通じ、生物多様性保全に貢献しています。

「天理古墳シャープの森」



6月上旬に開花
(花の寿命は約10日)



お客さまとのコミュニケーション



シャープミュージアム(天理)

シャープの環境技術や環境への取り組みを、社外の多くの皆さまに知っていただくため、奈良県内で行われる環境展示会やイベントに参加協力しています。特に地元天理市とは、行政・事業者・市民団体・教育関係者の皆さまと連携して地域の環境保全活動に貢献できるよう積極的な取り組み協力と情報の開示を行っています。

地域/社会との コミュニケーション

来場者数
2020年度：1,241人
2021年度：2,658人
2022年度：3,941人

多くの方にご来場いただきました



SDGsの取り組み

シャープとSDGs：経営理念とSDGs

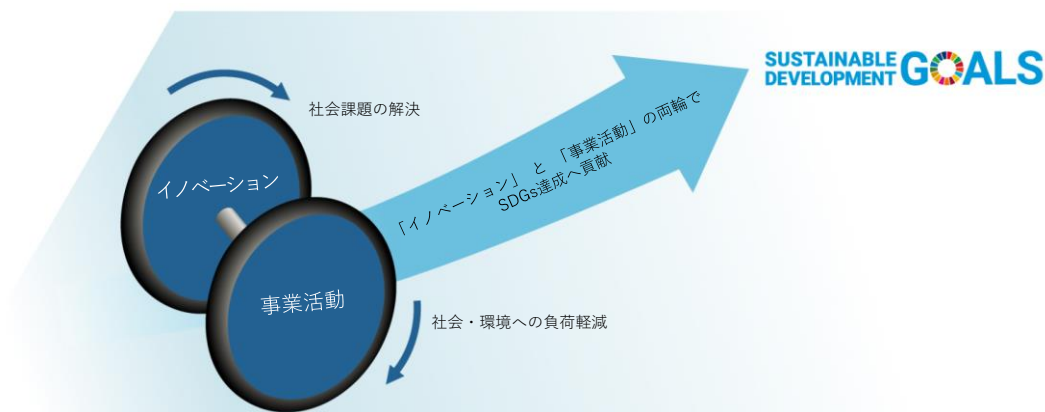
1973年に明文化されたシャープの経営理念には「広く世界の文化と福祉の向上に貢献する」「株主、取引先をはじめ、全ての協力者との相互繁栄を期す」などの言葉で、2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」に相通じる考え方が盛り込まれています。

シャープはこの経営理念の下、「事業や技術のイノベーションを通じた社会課題の解決」と「サステナブルな事業活動による社会・環境に対する負荷軽減」を両輪としたESG経営の推進により、SDGs達成への貢献を目指し、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい世界の実現に貢献していきます。

経営理念

いたずらに規模のみを追わず、
誠意と独自の技術をもって、
広く世界の文化と福祉の向上に貢献する。
会社に働く人々の能力開発と
生活福祉の向上に努め、
会社の発展と一人一人の
幸せとの一致をはかる。
株主、取引先をはじめ、
全ての協力者との相互繁栄を期す。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



社会にインパクトを与える世界初・世界一の独自技術により、新しいエコシステムを構築し、新規事業を創出・拡大する事により、持続可能な社会の実現に貢献します。



事業概要

研究開発本部では全社のイノベーションを支える基幹エンジンとなる革新技術の創出と、独自技術を核としたプラットフォーム構築に取り組んでいます。人と地球にやさしい社会の実現を目指して、新たな事業創出に挑戦し、開発成果の早期社会実装を通じて、イノベーションの実現を加速していきます。

活動状況

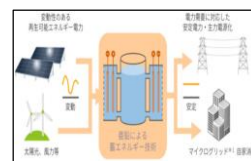
持続可能な社会を実現するため、多様化・複雑化する社会課題を解決し、新規事業創出に向けて、4つの領域で革新技術の開発に取り組んでいます。

- **ライフイノベーション領域**
クオリティ・オブ・ライフ (QOL) を高めるデジタルヘルスケア事業や、空気・食・水質の改善による社会課題解消への貢献。
- **グリーンイノベーション領域**
カーボンニュートラルの実現に向けた、創・蓄・省エネルギー技術創出とリデュース・リユース・リサイクル (3R) による革新技術の探求。
- **インダストリー DX・AI応用**
省人化・業務効率向上を実現するAI技術応用インダストリーDXソリューションの拡大。
人に寄り添うAI活用による生活家電の性能革新とAloT^{※1}プラットフォーム展開の強化。
- **コミュニケーションイノベーション領域**
世界50か国以上で6,000件以上の5Gを含む通信規格必須特許を保有するとともに、国際標準化活動にも積極的に取り組み、次世代通信・映像符合化標準化技術を創出。

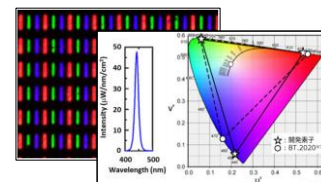
※1 AI (人工知能) とIoT (モノのインターネット) を組み合わせて当社が作った造語で、AloTにより機器やサービスが人に寄り添う世界を目指しています。

主要なSDGs貢献事例

- **再生可能エネルギーの普及促進とカーボンニュートラルの実現**
大規模な電力貯蔵に好適な「フロー型亜鉛空気電池」を用いた蓄エネルギー技術開発を開始し、革新的な電力貯蔵技術の確立と早期実用化を目指します。
- **環境負荷を軽減する新たな自発光ディスプレイの開発**
スペクトル幅が狭くカドミウムを含まない量子ドットによるRGB (赤緑青) 画素のパターニングに成功し、次世代高効率ディスプレイ「nano LED」の早期事業化を目指します。
- **次世代移動通信技術の社会実装**
ローカル5Gを活用した広大な放牧地管理の実証実験を実施し、放牧地の草刈りや除雪作業の省人化に貢献します。
- **5G無線通信・映像規格特許・標準化技術の開発**
5G標準規格に対し特許ファミリー1,846件の利用許諾宣言を行った標準規格特許を保有し (世界13位/日本2位) ^{※2}、社会インフラを支える無線通信標準化技術・規格化に貢献します。



「亜鉛による蓄エネルギー技術」
利用イメージ型



量子ドット発光素子のRGB画素と
青色量子ドットの発光スペクトルと色域



ローカル5G実証実験

受賞・表彰歴

- 令和4年度 産業標準化事業表彰「産業技術環境局長表彰」^{※3}を受賞

※2 2023年6月時点。第三者機関調べ。

※3 標準の策定や適合性評価活動など、産業標準化推進活動への功績を讃え経済産業省が表彰する。

長年培ったディスプレイおよびディスプレイ応用技術により、社会的課題の解決の一助となる新たな製品・サービス・ソリューションを創出し、持続可能な社会の実現に貢献します。



事業概要

シャープディスプレイテクノロジー（株）では、ヘッドマウントディスプレイ、スマートフォン、タブレット、パソコン、車載機器、大型テレビ等、小型から大型まで幅広い用途の最先端ディスプレイモジュールを開発・生産・販売しており、グローバルユーザーの多様なニーズに対応しています。

活動状況

シャープにおける液晶ディスプレイの歴史は、1973年に世界で初めて液晶表示付きCOS化^{※1}ポケット電卓を開発・発売したことに始まり、先進性の高い技術に常にチャレンジし続けることで人々の暮らしを豊かにする新商品の創出に貢献し、液晶ディスプレイのリーディングカンパニーとして新たな時代を切り拓いてきました。

当社は、超低消費電力・耐環境性能・高精細・高速駆動など、テクノロジーの進化に不可欠なディスプレイ技術の開発を強化し、革新的なデバイスを創出することで、シャープの成長の柱となる3つのブランド事業（スマートライフ&エナジー事業、スマートオフィス事業、ユニバーサルネットワーク事業）の優位性を支え、人々の暮らしやビジネスをサポートする新しい商品・サービス・ソリューションの創出に取り組むことで、世の中に新たな価値を提供し続けていきます。

また同時に、当社の事業活動を通じて、シャープが目指す「事業や技術のイノベーションを通じて社会的課題を解決」「サステナビリティ施策の推進を通じて事業活動による社会・環境に対する負荷を軽減」を両輪としたサステナブル経営を推進し、全ての人が安心・安全に暮らせる豊かな社会への貢献を目指すとともに、SDGsの達成に向けて、さまざまな分野でのビジネス展開に積極的に取り組み、社会に、未来に、地球環境に貢献する企業を目指します。

※1 Calculator On Substratum. 表示部、駆動部、キー接点など計算機システム全体を1つの基板上に構成すること。

主要なSDGs貢献事例

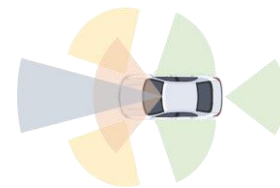
- カーボンニュートラルへの貢献・環境負荷の低減
 - ・次世代光発電デバイス「LC-LH」^{※2}の開発・量産化（2023年度）
微弱な屋内光での高効率発電が可能な色素増感太陽電池^{※3}と、長年培ってきた液晶ディスプレイ製造技術を融合した光発電デバイスを開発・量産化しました。使い捨て電池から「LC-LH」に置き換えることで環境負荷を低減します。
 - ・「ePoster」の開発・商品化（2024年度）
「超低消費電力ディスプレイ」+「LC-LH」の組み合わせにより、電源線・一次電池が不要なデジタルサイネージ「ePoster」の商品化を推進します。
- 安全・持続可能な輸送システムの構築の支援
 - ・「車載センシングカメラ」の開発・量産化（2023年度）
高度自動運転用途・ADAS^{※4}用途向け「車載センシングカメラ」を開発・量産化し、「交通事故の減少」と「脆弱な立場の人々に配慮した」交通機関の拡大に貢献します。



LC-LH



ePoster



車載センシングカメラ

受賞・表彰歴

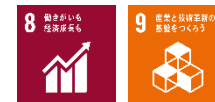
- CEATEC AWARD 2022「経済産業大臣賞」を光発電デバイス「LC-LH」が受賞

※2 Liquid and Crystal Light Harvesting.

※3 色素で吸収した光を電気に変換する有機太陽電池の一種。

※4 Advanced Driver Assistance Systems. 先進運転支援システム。

特徴カメラモジュール・センシングモジュールの創出によって、自動運転・XR・スマートホームなど生活を豊かにするテクノロジーの進化に貢献していきます。



事業概要

シャープセンシングテクノロジー（株）は、メタバース普及の鍵を握るXR※1端末の進化に役立つ超高速AFポリマーレンズ※2、超小型カメラモジュールの開発・デザインインを推進しています。

安心・安全な運転を支援する車載カメラモジュール※3や、スマートホーム・オフィス向け機器用の特徴カメラモジュールの開発、事業化を加速しています。

活動状況

スマートフォン、タブレット、その他IT機器に搭載されるカメラモジュールの開発・生産・販売をしています。シャープは2000年に世界で初めてカメラ付き携帯電話を販売しましたが、この携帯電話には自社開発したカメラモジュールが搭載されました。当時のカメラモジュールの解像度はわずか11万画素でしたが、継続して高画質化を追求してきた結果、2021年には1インチカメラで約2,020万画素、2022年には約4,720万画素のセンサーを搭載したカメラモジュールを商品化して、一眼レフ並みの高画質を実現させ、より手軽に高精細な写真が撮影できるようになりました。

また、これまで培ってきた要素技術を応用し、XR端末、車載、スマートホーム・スマートオフィス機器向けのカメラモジュール・センシングモジュールの開発に取り組んでいます。これらのデバイス創出を通じて、豊かな社会の実現に貢献していきます。

- ※1 現実世界と仮想世界を融合させる技術の総称。
- ※2 レンズの厚みを変化させることでピントを合わせるレンズ。
- ※3 ドライバーや同乗者を監視するカメラモジュール。
- ※4 2022年12月時点。当社調べ。

主要なSDGs貢献事例

- XR端末向けカメラモジュールの開発
 - レンズの厚みを変化させることでピントを合わせる、ポリマーレンズを採用したRGB（赤緑青）カラーカメラモジュールで、一般的なカメラよりも素早いピント合わせと映像に酔いにくい快適性を提供しています。
 - 世界最薄※4約1.96mmの超小型カメラモジュールを開発して、端末の小型・軽量化を実現しています。
- ドライバーや同乗者の監視用車載カメラモジュールの開発
 - ディスプレイと一体になったカメラモジュールシステムにより、ドライバーの安心・安全な運転の実現を支援します。
- スマートホーム・オフィス向け特徴カメラモジュール
 - 家電やデジタルサイネージ等に搭載し、人に寄り添う新たなサービスの創出に寄与していきます。



VR用ヘッドマウントディスプレイ



車載ディスプレイへの搭載例



デジタルサイネージへの搭載例

社会にインパクトを与えるデバイスを開発し、新しいエコシステムとなる新規事業創出・拡大による持続可能な社会の実現に貢献します。



事業概要

シャープセミコンダクターイノベーション (株) は、シャープの特長商品を支えるさまざまなキーデバイスであるPCIモジュール、ロボット掃除機など家電を中心に採用されているセンサデバイス、インフラ監視システム向け通信モジュールなどを創出し、開発・販売を行っています。

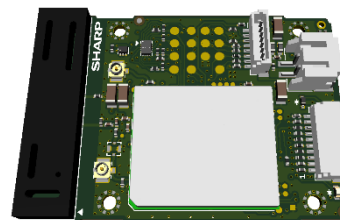
活動状況

8K+5GやAloT※1によるDX向けおよびデジタルヘルスケア向けソリューションの技術基盤となる、以下のようなデバイス・モジュールを開発・販売しています。

- 従来のオプトエレクトロニクス技術を応用した各種センサを更に発展させて、生体センシング機能をもつデバイスを開発し、人の健康状態をモニタリングできるソリューションを構築することで、さまざまな場面での健康サポートが可能になります。
- インフラモニタリング用途向けにIoT通信デバイスを展開することにより、各産業DXソリューションとして社会発展に貢献します。
- シャープ商品の特長でもあるプラズマクラスター向けキーデバイスを含めて、当社商品向けデバイスを開発することで、シャープグループとしてデジタルヘルスケア分野に貢献します。
- グローバル大手企業を中心に、独自特長デバイスを普及拡大することで、さまざまな生活シーンでの変革、社会活動や生活の質の向上が期待されます。
- 次世代通信向け新規技術Beyond 5G (B5G) を創出し、通信社会の発展に貢献します。

主要なSDGs貢献事例

- インフラに向けたIoT通信モジュールの提供
非モバイル通信インフラ (ADSL・ISDN) の代替として、IoTアダプタを利用した「途切れない・止まらないIoT機器」を実現しています。
- 新規分野向けオプトデバイス新製品の販売展開
ロボット掃除機向けToF※2方式測距センサやスマート水道メータ向けフォトインタラプタ、TWS※3イヤホン向け近接センサ等、新製品や商品の進化を促進しています。
- B5GのSoC※4開発を受託し研究開発の継続
公募採択された国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) の委託研究「継続的進化を可能とするB5G IoT SoCおよびIoTソリューション構築プラットフォームの研究開発」において、研究開発ステージゲート評価を最高ランクで通過し、NICTからの研究開発委託を継続して受託しました。
現在の5G通信の次の世代の技術を国内で早期に確立することを目指します。



IoT通信モジュール



各種センサ (光センサ等)

※1 AI (人工知能) とIoT (モノのインターネット) を組み合わせて当社が作った造語で、AloTにより機器やサービスが人に寄り添う世界を目指しています。

※2 Time of Flightの略。光源から放射された光が対象物で反射して、センサ (光検出器) に返ってくるまでの

時間を計測することで対象物との距離を計測する方法。

※3 True Wireless Stereo イヤホンの略。完全ワイヤレスイヤホン。 ※4 System on Chip.

シャープミュージアムの紹介



新時代の生活を提案し、暮らしと社会の夢をかなえ続けるシャープ。

その原点は、創業者 早川徳次の「他社にマネされる商品をつくれ」という言葉にあります。創業からの歴史や、驚きをもって世の中に迎えられ、やがて時代の本流となっていく技術や商品の数々、その他、健康・環境技術などをご紹介します。

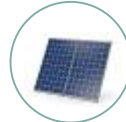
■ 創業



■ 時代の変遷



■ エネルギー



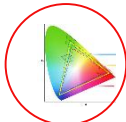
■ 環境保全



■ AIoT



■ 光



■ 生物模倣



■ ディスプレイ



【ご来場の案内】

【開館時間】 9:30～16:30 (入館は16:00迄)

【一般公開日】 月・水・金

* 火・木 および毎月末日は一般のお客様には非公開とします。

(但し、20名以上の団体のお客様につきましてはご相談ください)

【休館日】 土・日・祝日及び会社休日

【見学のご予約 -お申込・お問合せ-】

・ 電話：050-5433-1543、050-5433-4635

・ メール：tenrimt@list.sharp.co.jp

・ 事前に電話で空き状況をご確認のうえ、ご予約下さい。

※予約多数の場合は、日時の調整をお願いすることがあります。

【入場料 (現金のみ)】 一般 1,000円/人、シニア(65歳以上)800円/人、
小中学生300円/人

その他、詳細はホームページをご覧ください！

<https://corporate.jp.sharp/showroom/>



SHARP

Be Original.



発行：シャープ株式会社
研究開発本部 天理UTTサービス部

〒632-8567

奈良県天理市櫛本町2613番地の1

電話 050-5433-4734 (発行部門直通)

E-mail : ems.jimukyoku@list.sharp.co.jp